



千葉白菊会会報

第57号

令和2年9月発行
(2020)

令和元年一月、国の「キャリア教育・職業支援」の仕事辞して、残り少ない人生何を終末の目標とするのか改めて考えてみた。

どんな人にも、その人生を俯瞰的に見てみると大河ドラマや長編小説のごとく、語るべきものがあるものだが、とくにその終末は時に小さなドラマチックな場面であったりする。

私の妻の祖父は「東京オリンピック」のTV・ラジオの放送を寝室のベッドの中で、余すことなく観聴きした。やがてオリンピックが終了すると一切の食事、水さえも拒否し、自分の意志でその命のともしびを消した。その顔は苦しさを表すものでなく満足の笑みが浮かんでいたと聞く。八十六歳、終末の目標は達せられたのだろうか？

おじ(妻の母の兄弟)は大変洒脱な人で、当時あまりメジャーでない「トロン

ボーン」と言う楽器の奏者として音楽関係者の中で有名であった。ある日、所用で外出した折、電車の中で突然倒れ、そのまま息を引き取った。心筋梗塞、八十二歳であった。亡くなった後、当人の家族によると本人は生前「献体登録」を



していたことを明かしていたが事故扱いになったため、若い人たちに自分の身体を使って欲しいと登録した「献体」という本人の終末目標はそれを達することなく幕を閉じた。

義母の愛子は大学や短大の英文タイプの講師を長い間してきたが、七十五歳で自ら職を離れ、終末人生を歩き始めた。自分の終末人生を悔いなきものにすべく、身辺整理を始め、教え子や近親者との別れを精力的・計画的に果たし、目標のためと最後まで健康に留意し、柔軟体操や足腰を鍛えていた。本人の口から語られることはなかったが、兄の果たせなかった「献体」という終末目標に、業界は違っていたとはいえ若い教え子たちに、これ以上何を残せるかと思うと終末目標に「献体」とを考えていたものと推察する。六年前体力衰弱・病状悪化のため病院通いや自室のベッドに伏せる日々が続いたが意気軒昂、丁度開かれていたソチオリンピックを視聴、オリンピック終了後、二週間を待たずに多臓器不全でこの世を去った。九十二歳であった。彼女は千葉白菊会に献体登録をしていたので、献体成願し四年前に遺骨返還式に参列、若い人たちに見送られる義母の遺骨を手にしたとき「祖父・兄の終末目標を果たしたのよ」と言う義母の声に「そう、成願して若い人たちにその意思を伝えることが出来たね」と答える私があった。

改めて自分の終末人生に献体登録とは一里塚であり、その先に向かって前向きに生きることこそ大切だと心に誓った。

目次



巻頭言	副会長 鈴木 和男	1	千葉大学医学部「慰霊の日」	学 長 徳久 剛史	30
第三十九回千葉白菊会総会中止	会 長 大澤 國昭	3	追悼の言葉	医学部長 中山 俊憲	
事業・会計報告		4	感謝の言葉	学生代表 稗田 葉月	
事業計画・予算		6	一年の活動		34
成願者名簿		8	解剖学実習ガイドンス		
紙上講演			医学部白衣式に出席		
「腰の痛みや坐骨神経痛はなぜ起きるの？ また対処法は」	整形外科学教授 大鳥 精司	10	学生との懇談会		
寄付者名簿		13	名簿奉納式		
「新型コロナウイルス感染症とキャンパス」	環境生命医学 成田 都	14	献体から遺骨返還まで		36
解剖実習感想文 医学部二年生		16	白菊の広場		37
笹井 洸希・宮川 宏佳・佐藤 優馬			日野 桂子・林 宏・田代 浩巳		
高橋 陽香・鈴木 孝一郎・浅沼 彩太			辻本 秀人・濱辺 ますみ・鈴木 昌子		
「CALの理念は新たな段階へ！」			菅 悦朗・酒井 徳子・青柳 信子		
文科省課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択	環境生命医学 鈴木 崇根	24	役員紹介		40
CALに参加した医師の感想		26	事務局からのお知らせ		41
大塚 雄一郎・高 得榮			Q & A		42
江藤 文彦・高田 裕佳			ご家族の方々へ		44

第三十九回千葉白菊会総会中止

苦渋の決断 今は忍耐生活を

千葉白菊会会長 大澤 國昭



新型コロナウイルスの影響で、六月六日に実施予定だった第三十九回千葉白菊会総会を中止させて頂きました。

毎年、この総会を楽しみに、また励みに健康維持に努めて居られる方々のお声を聴くと誠に残念な事ではありますが、高齢者の多いこの集会が集団感染の基になる事態だけは、どうしても避けなければならぬと、苦渋の決断をさせて頂きました。紙上を借りましてご報告申し上げます。

始めに、日頃の皆様方の当会に対するご協力への御礼と御願いを致します。無条件・無報酬の究極のボランティアと言ふべき献体の精神を親しいご友人やご家族に伝え、その中から献体登録への申込みの方が増えていることに、心から敬意と感謝の気持ちをおささげしたいと思えます。

県内に新たな医療大学が創設されたこともあり、将来のことを考えれば千葉大医学部への献体者はもつと必要であり

ます。これからも皆様方の口コミによる「より積極的な献体登録の勧誘」へのご支援を切にお願い申し上げます。

次に、千葉白菊会の「医学生の間教育」への取組みについてであります。

私たちの献体の目的は言うまでもなく、医学生や医師たちの知識習得、能力向上や研究に資することでありますが、それ以外に千葉大医学部においては、献体を志した千葉白菊会の役員たちに、若い医学生たちへの特に人間的成長のための役目が与えられていることでもあります。

その機会は三つあり、先ず、肉眼解剖実習開講当日のガイダンスの席上、白菊会の役員からそれぞれの人生経験を通して献体を決意した動機などを披瀝する「千葉白菊会タイム」があることです。聴講する二十歳前後の若者の中には、涙ぐんで聴き入る者もおり、彼らの人間的な成長に少なからずお役に立っていると、毎回感じております。

二つ目は、約三か月に及ぶ解剖実習という非日常的な時間が終了したあと、千葉白菊会による「慰労・激励の茶話会」が持たれ、白菊会役員一人当たり医学生数名との懇談会を設けていることです。その中で彼らの祖父母年齢の私たちが、家庭では一度も聞いたことがないと言う私たちの戦争体験などを語ると、彼らは一様に真剣な眼差しで耳を傾け、己が今在る事への感謝の気持ちを吐露する者が何人も現れるのです。

三つ目は、医学生が病院での臨床実習を始めるための白衣を授かる「白衣式」で千葉白菊会にも激励の機会が与えられ、再度、献体を志す者からの切なる願いとして「思いやりの心」を持つ真の良医となる期待を申し上げることができるとです。

最後に千葉白菊会の役員につきましては別ページに掲載いたしますので、ご承認いただきしたいと思います。

忍耐は練達を生み、練達は希望に繋がると言われます。見えざる敵が相手では、不要不急の外出をやめ、外出時にはマスクを着用して出来るだけ物に触れることを避け、そして手指洗いを励行しましょう。そしてこうした忍耐生活を前向きに捉え、後はワクチンと特効薬の開発の一日も早くからんことを祈りましょう。

二〇一九年度事業報告書

令和二年三月三十一日

1. 献体登録業務

- (1) 二〇一九年（令和元）年度の献体登録状況は次の通りである。

前年度末在籍数		1,971
今年度状況	入会者数	+107
	献体成願者数	-80
	転籍他	-41
	増減数	-14
今年度末在籍者数		1,957

（単位：人）

新規入会時の医師教育への承諾書提出者 一〇七人（100%）

- (2) 解剖学実習及び研究、医師教育用の解剖体は一〇〇%充足された。
登録会員の実態調査
会員からの変更届けや返信状況を通じて、実態調査に努めた。

2. 啓発・広報活動

- (1) 遺族として必要なことを会報で繰り返しお願ひし、また保存版としての「ご家族へのお願ひ」の追加要請にも

- (2)

対応し、「無条件・無報酬」の理念も繰り返し訴え周知徹底をはかった。
献体勧誘のポスターを作成し、大学附属病院、医学部同窓会、千葉県医師会などに協力を依頼し、縁故の公共施設にも掲示をお願いした。
総会で実施した講演の内容を詳しく会報に掲載し、高齢者の健康保持に役立てることができた。

- (3)

3. 総会の開催

(1) 第三十八回千葉白菊会総会を令和元年六月八日（土）午前中、看護学部講義・実習室で実施した。
同日の講演会を、千葉大学大学院医学研究院環境生命医学教授森千里先生により「百年先をみつめて（鷗外と元号）」と題して実施し、元号が平成から令和に変更したこの時期に、森先生の曾祖父に当たる森 鷗外先生の深い関わりについて大変興味ある知識を得ることができた。

- (2)

(1) 会報の発行
会報五十六号を九月中に発行した。
この会報に総会実施の講演内容を詳しく掲載し、総会欠席の会員からも好評を得た。

- (2) (1) 4.

5. 大学との連携

- (1) 「献体の現役医師活用（CAL）」は、令和元年度で六九九人、累計四、〇一四人となった。

- (2)

医学生の実習開講日のガイダンスに出席し、献体動機などを披瀝した。

- (3)

医学生の実習に入る証しである白衣式に参加し、良医となる期待と激励の挨拶をし、また参加された大勢の保護者にも献体の意義を伝えることができた。

- (4)

新学舎竣工予定に関する大まかな情報を聴取した。（医学系総合研究棟：竣工予定令和三年四月）

6. 主な行事など

- (1)

元年六月八日 午前・第三十八回

千葉白菊会総会実施

午後・大学主催の解剖慰霊祭・遺骨返還

式参照

- (2)

元年十月四日 解剖学実習開講日ガイダンスに出席

- (3)

元年十一月二十九日 白衣式参照

- (4)

二年一月八日 解剖実習終了医学生との激励懇談会

- (4)

二年一月八日 解剖実習終了医学生との激励懇談会

収支決算書

2019年度 一般会計収支決算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1. 謝 金				
(1) 千葉大学医学部	900,000	900,000	0	
2. 補 助 金				
(1) 千葉大学医学部ものはな同窓会	200,000	200,000	0	
(2) 千葉大学医学部後援会	200,000	200,000	0	
(3) 一般財団法人同仁会	200,000	200,000	0	
(4) 千 葉 県	90,000	90,000	0	
(5) 千 葉 市	90,000	90,000	0	
(6) 千 葉 県 医 師 会	100,000	100,000	0	
3. 特別会計(寄付金)より組入	1,200,000	648,700	△ 551,300	
4. 雑 収 入	10,000	10	△ 9,990	
合 計	2,990,000	2,428,710	△ 561,290	

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1. 総 会 費	450,000	437,323	△ 12,677	6月8日開催
2. 慰 霊 祭 費	150,000	199,216	49,216	
3. 顕 彰 費	320,000	187,990	△ 132,010	
4. 懇 談 会 費	50,000	49,515	△ 485	1月8日開催
5. 通 信 費	450,000	413,616	△ 36,384	
6. 印 刷 費	800,000	634,059	△ 165,941	
7. 会 費 議 弁 費	10,000	9,589	△ 411	
8. 実 費 償 還 費	150,000	129,000	△ 21,000	
9. 交 通 費	150,000	102,250	△ 47,750	
10. 消 耗 品 費	20,000	14,288	△ 5,712	
11. 会 費 等	260,000	220,000	△ 40,000	
12. 総会・研修会参加費	150,000	19,220	△ 130,780	山口大学医学部(中止)
13. 雑 費	10,000	12,644	2,644	
14. 予 備 費	20,000	0	△ 20,000	
合 計	2,990,000	2,428,710	△ 561,290	

次年度へ繰越

0

2019年度 特別会計(寄付金)収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,616,626	1,616,626	0	
1. 寄 付 金	200,000	257,000	57,000	
2. 特別事業積立金振替	0	0	0	
合 計	1,816,626	1,873,626	57,000	

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1. 一 般 会 計 振 替	1,200,000	648,700	△ 551,300	
2. 特別事業積立金繰入	300,000	0	△ 300,000	
3. 予 備 費	316,626	0	△ 316,626	
合 計	1,816,626	648,700	△ 1,167,926	

次年度へ繰越

1,224,926

2019年度の予算額、決算額に関する帳簿および関係書類を監査した結果正確であることを認めます。

令和2年4月16日

監事 青柳 信子

監事 山田 健治

令和二年度事業計画

令和二年四月一日

も、繰り返し訴求していく。

3. 総会の開催

(1) 第三十九回総会を令和二年六月六日

(土) 午前中に、看護学部講義・実習室にて行う。

尚、希望する方は午後の大学主催の解剖慰霊祭（るのはな記念講堂）にも参加する。

(2) 総会において有益な講演を行う。

(3) 総会に続き、昼食後、献体の碑への成願者芳名奉納式を行う。

4. 会報の発行

(1) 九月中に会報五十七号を発行する。

(2) 会報には、総会における講演内容の詳細を盛り込む。

5. 大学との連携

(1) 解剖実習前ガイダンスに出席し、献体動機の発表など、大学からの要請には積極的に参加する。又、実習終了後の学生との懇談（激励）を通じて、医学生の人間的成長にも可能な限り努める。

(2) 医学生の実習時の白衣式に参加し、白菊会として良医となるべき期待を披瀝する。

(3) 役員会に亥鼻地区事務部の同席を常にお願いし、また必要に応じて大学関係部署との打合せ会を開き、大学との連携の質と量の向上を図る。

(4) 令和三年春予定の新医学部研究棟竣工に伴い、白菊会室の移転準備を行う。

6. 主な行事予定

(1) 六月六日 第三十九回千葉白菊会

(2) 九月末日迄 会報五十七号を発行

(3) 八月十七日 肉眼解剖学特論ガイダンス（マスターコース）

(4) 十月 中旬 肉眼解剖学実習ガイダンス

(5) 一月 上旬 解剖実習後学生との懇談（激励）会

(6) 三月 下旬 篤志解剖全国連合会の団体部会研修会・年次総会

※新型コロナウイルス感染拡大前に草案されたものです。

1. 献体登録業務

(1) 献体の理念の理解度や親族の同意状況を精査し、登録業務を積極的に実施する。

(2) 献体申込書記載の死亡時の連絡責任者欄への連絡者順位の記入を徹底する。

(3) 献体の現役医師への教育・研究（CAL）についての活用承諾書の〇〇％取得を目指す。

(4) 会員の変更届や返信状況などを通して、登録会員の状況把握を引き続き実施する。

2. 広報・啓発活動

(1) 献体募集ポスターを会報に同封するなど会員にも会員募集の協力を依頼する。

(2) 献体登録者には「いざと言う時の備え」について周知徹底を図ると共に、ご家族の対応や死亡原因によっては、ご遺体の引取りが出来ない場合もあることを説明する。

(3) 「無条件・無報酬」の理念について

収支予算書

令和2年度 一般会計収支予算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
1. 補 助 金		
(1)千葉大学医学部	900,000	
(2)千葉大学医学部みのはな同窓会	200,000	
(3)千葉大学医学部後援会	200,000	
(4)一般財団法人同仁会	200,000	
(5)千 葉 県	90,000	
(6)千 葉 市	90,000	
(7)千葉県医師会	100,000	
2. 雑 収 入	10,000	
3. 特別会計(寄付金)より組入	1,000,000	
合 計	2,790,000	

支出の部

項 目	予 算 額	備 考
1. 総 会 費	410,000	
2. 慰 霊 祭 費	120,000	
3. 顕 彰 費	290,000	
4. 懇 談 会 費	50,000	学生との懇談会実施
5. 通 信 費	420,000	会報、総会案内送付含む
6. 印 刷 費	730,000	
7. 会 議 費	10,000	
8. 実 費 弁 償 費	150,000	
9. 交 通 費	150,000	
10. 消 耗 品 費	20,000	
11. 会 費 等	260,000	
12. 全国総会・研修会参加費	150,000	3名出席予定
13. 雑 費	10,000	
14. 予 備 費	20,000	
合 計	2,790,000	

令和2年度 特別会計(寄付金)収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,224,926	
1. 寄 付 金	200,000	
2. 特別事業積立金振替	0	
合 計	1,424,926	

支出の部

項 目	予 算 額	備 考
1. 一 般 会 計 振 替	1,000,000	
2. 特別事業積立金繰入	200,000	
3. 予 備 費	224,926	
合 計	1,424,926	

成願者名簿

平成三十一年四月一日より令和二年三月三十一日まで八十名の会員が成願されました。
 謹んで追悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

(注) 千葉大学に献体(成願)された日を記載しています。(死亡年月日ではありません)

故	眞田 幸司 様	館山市	79歳	故	平山 五郎 様	成田市	78歳	故	日南 順子 様	木更津市	83歳
故	平成三十一年四月三日			故	令和元年五月四日			故	令和元年七月四日		
故	笹沼 幸子 様	松戸市	85歳	故	神尾 健二 様	市川市	67歳	故	旭 章子 様	千葉市花見川区	104歳
故	平成三十一年四月七日			故	令和元年五月五日			故	令和元年七月七日		
故	伏見ミヨ子 様	千葉市美浜区	84歳	故	渡邊 良子 様	市原市	68歳	故	早川 正男 様	千葉市若葉区	91歳
故	平成三十一年四月十三日			故	令和元年五月六日			故	令和元年七月十三日		
故	鈴木 さか 様	鴨川市	87歳	故	柴崎 了よ 様	袖ヶ浦市	94歳	故	遠山 富雄 様	木更津市	68歳
故	平成三十一年四月十三日			故	令和元年五月九日			故	令和元年七月十八日		
故	吉川 允子 様	白井市	94歳	故	石田 雅近 様	千葉市中央区	74歳	故	小野與四郎 様	流山市	94歳
故	平成三十一年四月十四日			故	令和元年五月十二日			故	令和元年七月二十四日		
故	今 勝夫 様	習志野市	80歳	故	益山 澄子 様	松戸市	93歳	故	加藤 桂一 様	佐倉市	72歳
故	平成三十一年四月十四日			故	令和元年五月二十七日			故	令和元年七月二十六日		
故	武内 成嘉 様	千葉市中央区	77歳	故	関 光旭 様	船橋市	78歳	故	山本祐四郎 様	松戸市	91歳
故	平成三十一年四月十四日			故	令和元年五月二十九日			故	令和元年八月二日		
故	小杵 良三 様	鎌ヶ谷市	80歳	故	小林 要 様	千葉市美浜区	103歳	故	栗原 慶子 様	松戸市	91歳
故	平成三十一年四月十七日			故	令和元年六月五日			故	令和元年八月六日		
故	渡邊 いね 様	千葉市中央区	107歳	故	浦山ルリ子 様	千葉市若葉区	72歳	故	西田 榮 様	我孫子市	90歳
故	平成三十一年四月十七日			故	令和元年六月十五日			故	令和元年八月十日		
故	佐藤政太郎 様	船橋市	90歳	故	中葉 和子 様	流山市	86歳	故	田中リツ子 様	柏市	82歳
故	平成三十一年四月十九日			故	令和元年七月一日			故	令和元年八月十一日		
故	松坂 正 様	千葉市若葉区	89歳	故	丸山 武文 様	千葉市中央区	82歳	故	小熊 ナカ 様	八千代市	103歳
故	平成三十一年四月二十八日			故	令和元年七月三日			故	令和元年八月十四日		
故	遠藤 政雄 様	香取郡多古町	83歳	故	岩本 好右 様	我孫子市	81歳	故	安田 壽夫 様	船橋市	91歳
故	平成三十一年四月三十日			故	令和元年七月三日			故	令和元年八月十九日		

成願者名簿

故	野間 雅子 様	八千代市	90歳
故	沼田 寛 様	船橋市	78歳
故	大須賀 博 様	市川市	89歳
故	鈴木 武男 様	八千代市	92歳
故	浅野 将治 様	山武郡横芝光町	79歳
故	長谷川成雄 様	松戸市	91歳
故	外山 朝子 様	我孫子市	97歳
故	兵頭 春久 様	千葉市中央区	68歳
故	菊間 ミチ 様	千葉市中央区	90歳
故	五十嵐康雅 様	館山市	91歳
故	榎本 壽子 様	八千代市	87歳
故	大塚 恵司 様	東金市	87歳
故	望月 祥子 様	千葉市花見川区	86歳
故	酒井 北男 様	市川市	82歳
故	花岡 直子 様	勝浦市	98歳
故	田中 重光 様	四街道市	80歳
故	小林謙一郎 様	東京都杉並区	90歳
故	野口 静江 様	佐倉市	82歳
故	永野 俊雄 様	東京都足立区	89歳
故	門元 幸代 様	八千代市	78歳
故	行縄 はつ 様	館山市	96歳
故	羽田 辰生 様	東京都葛飾区	91歳
故	阿部あい子 様	大網白里市	85歳
故	森 ユイ 様	千葉市中央区	102歳
故	廣谷 幸代 様	千葉市花見川区	88歳
故	明石 陽子 様	習志野市	91歳
故	大島百合子 様	千葉市稲毛区	102歳
故	関 祥も 様	東京都練馬区	104歳
故	瀬戸 眞二 様	松戸市	86歳
故	谷川 まさ 様	成田市	99歳
故	高橋 照代 様	柏市	91歳
故	五十嵐キヨミ 様	四街道市	97歳
故	佐藤 義二 様	我孫子市	84歳
故	関 あい子 様	市川市	89歳
故	野澤 勝味 様	茂原市	95歳
故	竹中 昭夫 様	千葉市若葉区	87歳
故	滝澤たつ子 様	千葉市花見川区	90歳
故	原田 和明 様	市原市	89歳
故	平沢 昭一 様	松戸市	74歳
故	廣岡 昭三 様	千葉市中央区	85歳
故	大和久洋子 様	東金市	75歳
故	菅原 吉朗 様	市原市	81歳
故	内藤 和枝 様	袖ヶ浦市	81歳
故	竹花 吉子 様	千葉市中央区	82歳

腰の痛みや坐骨神経痛はなぜ起きるの？ また対処法は？

千葉大学大学院医学研究院

整形外科学教授 大鳥 精 司



千葉白菊会名物の総会記念講演。本年は残念ながら総会中止のため行うことができませんでした。

楽しみにされていたという会員の皆様のお声を受け、今回は紙上講演という形で掲載させていただきますことに致しました。

長びく腰痛や痛みが

強いときには受診を

国民の八割以上の方が腰痛を一度は経験したことがあります。また腰痛と一緒に坐骨神経痛や足の痛みやしびれを訴えることもあります。このほとんどが腰椎（腰骨）や腰椎の中を走る神経からきていることが多いのです。ただし、腰痛が長く続く場合は、まずは内科的疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、内臓疾患）を十分に念頭に置く必要があります。安静にしていても痛いとか、キリキリ疼くとか、体重が減ってきたとか、そういう場合は要注意です。

そのような病気ではない場合は、例えば動かしたときに痛いとか、歩いたときに足のしびれが酷くなるとかの場合は、整形外科疾患を考えましょう。ただし整形外科が扱う病気の中でも「赤信号」の

病気があります。腰椎の炎症があったり、骨粗鬆症で骨が折れたりする病気です。

その場合、痛みが強いので、適切な処置が必要です。骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折は女性に多く、注意が必要です。高齢者の場合、転倒等の明らかかな外傷の既往がないことも多く、そのような、外傷歴がないのに、急性腰痛が遷延（注）した場合（MRI等の撮影を行うと骨折が判明する事がありますので、すぐに受診することをお勧めします）。

最も多い腰の病気

椎間板ヘルニアと脊柱管狭窄症

よく、腰椎椎間板ヘルニアとか、腰部脊柱管狭窄症という言葉を聞くと、思います。これらは老若男女を問わず最も多い整形外科でみる腰の病気です。背骨の中で腰椎は大きな五つの椎体からなっております。この部位には一番大きな衝撃が

かかってきます。衝撃を和らげるのが椎間板というクッションです。椎間板の外側の線維輪はバームクーヘンのような年輪状の構造となっており、何らかの原因によって亀裂が生じると、中心部分の髄核が飛び出します。この髄核が腰椎の馬尾^び、神経根という神経を圧迫するのが腰椎間板ヘルニアです。また年齢とともに神経の管が狭くなってくる方々がおります。それによって腰の神経が圧迫されるのが、腰部脊柱管狭窄症です。腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症はともに、腰痛、坐骨神経痛、脚（足）の痛み、痺れなどがその症状です。また間欠跛行^{かんけつぱこう}といって、短時間しか歩けず、少し休むとまた歩けるといった症状が出ます。稀ですが排尿障害、脚（足）が動かないなどの症状があり、この場合は緊急手術が必要ですが、ほとんどの方には、まずは鎮痛剤を使用し、リハビリテーションを行ったりする保存療法を最優先に行います。なぜなら体内の免疫細胞が椎間板ヘルニアを異物と判断・^{注2}貪食し、三か月以内に自然消失する方々が多いからです。最近では椎間板ヘルニアを溶かす薬（椎

間板内酵素注入療法）が保険適応となり椎間板への注射療法も効果を上げております。痛みが強い場合、保存療法で治らない場合はこれが適応となります。腰部脊柱管狭窄症の方も鎮痛剤とリハビリテーションをすれば、三か月以内に七割以上の方が良くなります。また積極的に運動することで十〜二十%の方で、手術にならなかつたというアメリカのデータもあります。

最後の手段として手術が選択されます。従来の方法から内視鏡を用いたものが一般的です。若干の侵襲^{注3}はありますが、最も確実な方法です。重要な点は、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄のタイプにより、経過が異なりますので、どの治療法を選択するかで治療の方針が変わってきます。主治医の先生とご相談され最適な治療法を選ばれることをお勧めします。

治りづらい筋肉の

衰えからくる腰痛

最後に最もありがちですが、なかなか良くならない腰痛に筋肉の衰えからくる

腰痛があります。これは六十五歳以上の方が二十六%を超え、『超高齢社会』に拍車がかかっていることにも関わっています。フレイル、ロコモティブシンドロームは、「筋肉や運動機能が低下し、要介護になる危険が高い状態」のことを指します。骨粗鬆症や、腰の曲り、膝の痛み、肩の痛みは筋力・筋量の減少と重なります。結果として活動性の低下、痛みの増加、精神的な鬱状態を引き起こし、皆様の生活に多大なる損害を起こすことにもつながっています。それではフレイル、ロコモティブシンドロームについてお話しします。今後検診がスタートするので一度はお聞きしたことがあるでしょう。

フレイルと

ロコモティブシンドローム

フレイルとは「虚弱」「老衰」という意味です。具体的な指標は明確ではありませんが、一般的に、予期せず年間五キロの体重減少がある、疲れやすい、週に三〜四日何をするのもおっくうと思う、歩行速度や握力の低下、気分が晴れない等が該当します。フレイルになると、転倒

して骨折したり、内科的な病気（肺炎や胃潰瘍）になりやすくなります。六十五歳以上の男性の五％、女性の十二％がフレイルで、男性の五十％、女性の五十五％がフレイル予備群であるとされています。ロコモティブシンドロームも同様の概念です。簡単なチェック方法は「立ち上がりテスト」です。どちらか一方の片脚で四十cmの高さから立ち上がれないとロコモ度1、両足で二十cmの高さから立ち上がれないとロコモ度2となります。勿論ロコモ度2の方が重症で、何らかの運動障害を抱えている可能性があります。当然腰痛の可能性も高くなる訳です。

運動とバランスのよい食事

筋力の低下を予防

予防策として大事な点を述べます。予防策として運動と栄養摂取があげられます。運動はウォーキングなどの比較的楽な有酸素運動だけではなく、筋力筋量増加を目的とした筋トレ、負荷を与えたスクワットのようなレジスタンストレーニング（無酸素運動）も推奨されています。個人個人のペースに合わせた、オーダー

メイドの運動習慣が望ましいと思います。

食事はバランス良く摂ることが重要ですが、一日七十五g以上のタンパク質を摂ることが必要であると言われています。それと体では合成することができない必須アミノ酸をバランス良く含む食品をしつかり摂ることが重要です。必須アミノ酸でもロイシン、イソロイシン、バリンの補給が重要で肉、魚、卵、乳製品、大豆に多く含まれます。具体的には主食、主菜、副菜の揃った一汁三菜または一汁二菜でメニューを立てます。まずは炭水化物を摂れる主食（米・パン・麺類）、良質なたんぱく質・鉄分を摂れる主菜（肉・魚・大豆製品・卵）、ビタミン・ミネラル・食物繊維などを豊富に含む副菜（野菜・海藻・きのこ）を摂ってください。間食でカルシウムを摂れる乳製品（牛乳・ヨーグルト・チーズ）やビタミンを摂れる果物もお薦めします。実際に栄養を摂りながらの運動は、皆様の肩こりや腰痛を解消することが証明されております。また台湾での約四十二万人の大規模研究では、一日十五分の運動は十四％の死亡率減少をもたらす、これは寿命三年分の

延長に相当します。十五分追加するとさらに四％の死亡率減少をもたらします。ですから皆様が筋量を維持し減らさないことが、余命を健康に維持するのに大事です。

（注1）遷延（せんえん）

……長引くこと

（注2）食食（どんじょく）

……体内の細胞が不必要なものを取り込み消化し分解する作用

（注3）侵襲（しんしゅう）

……生体を傷つけること

千葉白菊会からも

大学病院に寄付

新型コロナウイルス感染症の対応に伴う病床数の削減などで収入減少に直面している千葉大学附属病院はホームページなどで寄付を募集しています。千葉白菊会からも特別会計の予備費を大学病院に寄付致しました。会員の皆様には紙面で報告させて頂きます。

令和2年9月

会長 大澤 國昭

寄付者名簿

(平成三十一年四月～令和二年三月)

次の方々から千葉白菊会へご寄付を頂きました。ご報告かたがた心より御礼申し上げます。ご寄付頂きました金品は本会の運営に使わせて頂きます。

(順不同)

芳名	住所	芳名	住所
小林 ゆき子 様	木更津市	吉田 富勇 様	印西市
岩泉 禮子 様	千葉市中央区	城 基雄・恵子 様	千葉市美浜区
本田 明 様	袖ヶ浦市	竹花 八重子 様	川口市
大橋 美恵子 様	千葉市稲毛区	折橋 幸治 様	千葉市中央区
高橋 和夫 様	君津市	白倉 千津子 様	松戸市
花澤 怜子 様	千葉市中央区	関 幸子 様	船橋市
倉内 ヨネ子 様	木更津市	渡邊 朝治・隆子 様	千葉市緑区
飯田 敬子 様	船橋市	鎌田 好枝 様	茂原市
成毛 壮一郎・節子 様	山武市	橋口 静江 様	東京都足立区
大塚 晃 様	君津市		
水野 なつ子 様	柏市		
玉腰 まさみ 様	松戸市		
伊東 都 様	八千代市		
高橋 廣司・和子 様	千葉市美浜区		
渡辺 米 様	船橋市		
		内 現 金	二五七、〇〇〇円
		切手等	一二、四九六円

お知らせ

ご寄付の際に銀行振込が使えるようになりました

これまで皆様からのご寄付は現金書留や総会会場での受け取りとなっておりましたが、この度専用の口座を開設いたしましたので、併せてご利用ください。

皆様からのご寄付は本会の運営のみならず、解剖学実習にも使わせていただいております。

時節柄、口座名は明記いたしませんので、お手数ですが詳細につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

新型コロナウイルス感染症とキャンパス

〜正しく知ろう COVID-19

千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 助教

成田 都



新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が世界中に蔓延し、大変苦しい状況が続いております。まさに地球規模の由々しき事態であります。苦渋の決断となりましたが感染拡大防止の観点から、「令和二年度（第九十三回）千葉大学医学部解剖慰霊祭及び感謝状伝達式並びに遺骨返還式」はやむなく中止するに至りました。

医学部学生の新型コロナウイルス感染症予防における現状

学生への影響も甚大であります。四月七日、政府により発令された緊急事態宣言に伴い、四月八日より学生の各キャンパスへの入構制限が実施されました。宣言解除に伴い、今後徐々に緩和されていく予定であります。授業に関しては、現在は第一〜三タームの実施は全てインターネットを用いたメディア授業となっております。

ご心配をいただいております肉眼解剖学・神経解剖学の講義および実習につきましましては、本年度も十月から開始予定でございますが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が必須となります。六月末

現在、感染予防策を万全にした上での実施を考えております。

特に解剖実習は医学部生にとって医学知識の習得のみならず、健全な倫理観や医療者としての使命感を養うための登竜門としての位置づけとしても重要であり、必須であると考えております。本学のよいうなCAL（クリニカルアナトミーラボ）の設立により、医師になってからも御献体を用いたワークショップに参加し勉強できる機会が増えて参りましたが、外科系の医師以外は大勢が医学部生の解剖実習が最初で最後であるという実態を鑑みましても、万全の対策を期し、例年の如く充実した解剖実習を実施したいと考えております。

3つの密を避けましょう！（密閉・密集・密接）

- ◆人との間隔はできるだけ2m（最低1m）あける。
- ◆会話をしている際は、可能な限り真正面を避ける。
- ◆咳エチケットの徹底
- ◆外出時や屋内でも会話をしているとき、人との間隔が十分取れない場合はマスクをする。
- ◆家に帰ったらまず手や顔を洗う。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- ◆こまめに換気
- ◆一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ◆毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養
- ◆感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動を避ける

基本的
感染対策

新型コロナウイルスと共存するために一人ひとりができることは

さて、新型コロナウイルスに有効なワクチンは世界各国で目下開発中でありませんが、完成までに時間がかかる場合、新型コロナウイルスとは長い付き合いになることが予想されます。昨今では、「Withコロナ」、「コロナと共存する社会」などという表現が用いられるようになりました。では、私たちは一体どのように新型コロナウイルスと共存していけばよいのでしょうか？

最近メディアやマスコミではエビデンス（根拠や証拠）に基づかない正しくない情報が流れたり、国民の不安を煽るようなデマが拡散したりしています。SNSなどにおける誤った情報に惑わされることのないよう、政府機関の公式発表などを確認し、適宜行動していきましょう。

新型コロナウイルスは無症状（不顕性感染）や軽症の場合でも、他人へ感染を広げてしまうことが、これまでの感染症とは異なる特徴の一つであり、深刻な問題となっています。

自らを感染から守るという観点のみならず、自分はずでに感染しているかもしれないという認識のもと、自らが周囲に

感染を拡大させない行動をとることが不可欠です。その為には一人ひとりの感染予防への心がけが何より重要となります。「三密」の回避はもとより、政府機関が発表した飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に取り入れた「新しい生活様式」を実践していきましょう。

我々一人ひとり、日常生活の中で「新しい生活様式」を心がけることで、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種の感染症の拡大を防ぐことができ、自身のみならず、大事な家族や友人、隣人の命を守ることに繋がります。

国民が一丸となり、正しい知識と生活様式でこの難局を乗り切りましょう！

参考文献

- 新しい生活様式（厚生労働省HP）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/a/0000121431_newlifestyle.html
- 3つの密（厚生労働省HP）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000622211.pdf>

新しい生活様式を実践していきましょう！



買い物

- ◆通販や電子決済の利用
- ◆一人または少人数ですいた時間に
- ◆展示品や商品への接触は控えめに
- ◆レジに並ぶときは前後に間隔を

食事

- ◆持ち帰りや出前も利用
- ◆屋外空間で気持ちよく
- ◆大皿は避けて料理は個々に
- ◆座るときは対面ではなく横並びに
- ◆料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ◆お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避ける

公共交通機関の利用

- ◆会話は控えめに
- ◆混んでいる時間帯は避ける
- ◆徒歩や自転車利用も併用する

冠婚葬祭などの親族行事

- ◆多人数での会食は避けて
- ◆発熱や風邪の症状があるときは欠席する

娯楽・スポーツ・イベント等

- ◆公園はすいた時間、場所を選ぶ
- ◆筋トレやヨガは十分に人との間隔を
- ◆ジョギングは少人数で
- ◆歌や応援は十分な距離かオンライン

医学部学生感想文

令和元（二〇一九）年度は医学部二年次の学生百十四名が肉眼解剖学実習に参加し、一月八日に納棺式が行われました。学生の皆様の感想をいくつかご紹介いたします。

※解剖学で使用している専門用語については次ページをご覧ください。

すべてに敬意を表して

笹井 洸希

解剖学実習の初日は自分にとって衝撃的な一日となりました。あまり実感がわかないまま解剖台に向かったのですが、白布をめくり返したときに今まで感じることのなかった恐怖が襲ってきたのです。もはや動くことのないご遺体のお顔を拝し、自分にはこの方の献体してくださった気持ちを引き継ぐ使命があると、その責任に強く押されたことは鮮明に記憶に残っています。解剖学は医師になるうえで必須であるという意識が、逆に解剖そ

のものを当然のもののように感じさせていたのですが、それが一気に払拭された瞬間でした。ご遺体のご厚意に背かないという思いは、私の医師になるうえで大きなステップであったと思えます。

そのような状態で必死に取り組んでいくうち、次第に緊張もほぐれていきまし。た。毎回新たな発見があるこの時間は刺激的で、とても貴重な経験だったと今でも思います。必要な知識を得て、それを踏まえたいうで様々な症状の原因と結果を結びつけるのは、強く学習意欲がそえられることでした。班のメンバーとじっくり議論をして一つの答えに辿り着いたときは達成感があり、そのために最後まで残ってしまった回も多かったのはいい思い出です。しかし、慣れというものは恐ろしいもので、解剖学の魅力に引き込まれて、解剖を行えることへの感謝の意が薄れてしまったときもあります。作業に集中するあまりご遺体に対する配慮に欠け、ご遺体の上に実習書を並べて作業してしまったり日もありました。自分が置かれていた状況の尊さを忘れてしまうことは多々あります。ですが人の命を預か

る医師としてはあつてはならないことです。常に敬意を払って行動することが相手の心に伝える手段であり、それは今後しっかりと身につける必要を感じました。この事実にご遺体の方にも感謝し、今となってはご遺体の方に感謝しかありません。

実習期間の残りある三か月はあつという間で、気が付いたら納棺式を迎える日となりました。棺に納められたご遺体と対面している間、これまでの時間をありがたく思うとともに、献体してくださった方やそのご遺族のことを考えていました。どうして献体に協力していただけたのだろうか、ご遺族はどのような気持ちでそれを受け入れたのだろうか、という問いが頭を離れません。結局疑問は解決しないまま式は終了し、そのまま千葉白菊会主催の慰労会へと向かいました。そこで私はふと気になって、隣の方になぜ白菊会に登録されたのですか、と尋ねてみました。するとその方は自身の体験談も踏まえてこう答えてくださいました。「お金も地位も名声も最後には何も残らない。他人を思いやる心が自分を幸せに



肉眼解剖学実習ガイダンス (R1.10.4)

してくれるのだよ」と。私はこれを聞いて大いに納得がいきました。この方たちは生の本当の大切さを知っている。だから自分と同様に他者の生を尊重でき、献体をも決意できるのだ、と考えたのです。その姿勢はとても感動的であり、まさにこれから医療職に就く私たちに求められるものだと思います。目からうろこが落ちた瞬間でした。

私はこの感想文を通して正直に自分と向き合い、それによって多くのことに気付くことができました。解剖の知識はも

ちろんですが、心意気という面で医師としてのあるべき姿に少し近づけたと思うのです。これから医療に携わる以上、良くも悪くも多種多様な人々に出会っていくでしょう。ですがそこでの価値観の違いを否定することなく、相手のこれまでの生とこれからの生に敬意を払うのが医師の本質であると考えます。まだまだ難しい課題ではありますが今回学び得たことを活かせるのが何よりの幸せです。

最後に解剖学実習の関係者の方々、そして何より献体してくださった方とご遺族に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

医師となる責任

宮川 宏佳

「献体をすることで医学生の方々の役に立てることができているのが嬉しいです」解剖実習前のガイダンスで白菊会の方が笑顔で言ったこの言葉で献体をしてくださる「先生」の気持ちを知り、背筋が伸びる思いがした。

実習初日、白布をそつと外すと生を全

うされたご遺体の先生が横たわっていた光景が今でも鮮明に思い出される。初めて持ったメスで、ご遺体に刃を入れることに戸惑いと恐怖を覚えた。しかし実習



解剖学で使われる用語の解説

走行……神経や血管などの位置や連続性のこと

メツツェン……組織を切断するための剪刀の一種

アトラス……解剖実習で使用する人体の図譜のこと

剖出……見るべき器官を掘り出す（解きわけること）

胸腔ドレナージ……肺と胸壁の間の空間（胸腔）に胸腔ドレーンと呼ばれるチューブを挿入すること

……肺と胸壁の間の空間（胸腔）に胸腔ドレーンと呼ばれるチューブを挿入すること

を進めるごとに筋肉の付き方や血管、神経の走行、臓器の構造が本当に教科書の通りで人の体にある普遍性を感じ、何十年も正確に機能し続ける精巧なこの構造が遙か昔から存在してきたことに感動を覚えた。時に人によって構造が異なる部分もあり、そのことも含めて生命の尊さを感じた。私の体の中でも、同じ実習班のメンバーの体の中でも、複雑な仕組みが重なり合って今生きているのだと思わず周りを見渡してしまった。さらに臨床解剖講義によって解剖学を臨牀的な観点からも学ぶことができ、次にこの血管を見ることができるのは医師として現場に立つときだと、目に焼き付けるように解剖を行った。しかし同時に実習を進める中で、感覚が麻痺して目の前の先生のことを「モノ」のように感じてしまっていないか、淡々と行程を進めるだけになってしまっていないか葛藤もあった。人を解剖させていただいているという緊張感を常に忘れないように毎回の実習の始めと終わりに心を込めて黙祷を捧げた。実習を通じて知識、心構えの両方において医学を志す者として大きく成長できたの



納 棺 式 (R2.1.8)

ではないかと思う。

納棺式の日、感謝の気持ちを伝えるためにできることはないかと考えたとき、自分で花を包み献花の花束を作ろうと思いい、いくつかの花屋をまわった。解剖させていただいた先生はどのような方で、どのような人生を送ってきたのか、どの花が似合うだろうかと思いを馳せながら花を見ていると綺麗な白百合とかすみ草が目にとまった。店員さんに実習のことと感謝の献花のことを話したところ、「私の叔母が看護師をしていて亡くなっ

た後に献体をしたんです。素敵なお花束を作ってくださいね」と店員さんは茎を丁寧にそろえ花束にしやすいように花を組んでくれた。献体という行為が献体者だけでなく家族にとってもずっと大きな意味合いをもち続けることに気づかされた。温かい気持ちを込めて作った花束の花々は今回解剖させていただいた女性の先生のように凛と咲いていて、今まで手にした中で一番美しい花束だった。実習中に聞いた、献体に登録されている先生方は亡くなってすぐ解剖されるのではなく、長い時間待ち続けてやっと解剖されて念願が叶うという話を思い出し、美しい花束が大きな役割を果たした先生の最期の姿と重なった。

実習を通じて、たくさんの方が医学の発展を願い、家族を説得して白菊会に登録してくださいださることを初めて知った。献体してくださいださるだけで学生にとって感謝しきれないことであるのに寄付もいただいて学習用の端末を使うことができたこと、献体を決心する勇氣、花屋の店員さんのように献体を認めてくださった献体者の方の家族がいらっしやること、



学生達が用意した花束が捧げられます

すべてに将来医師になる私たち医学生への期待と願いが込められているのだと思う。これからは医学を勉強する私一人のためではない、献体に関わってくださった方の思いも背負って勉強してよき医師となる責任がある。その責任を果たすためにも誠心誠意勉強していこうと思う。本実習にあたって、ご遺体の先生方、ご家族の皆様、白菊会の皆様、実習をサポートしてくださった先生や大学職員の方々に深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

肉眼解剖実習を通して 得た学び

佐藤 優馬

私にとって肉眼解剖実習は、確かに今までで最も印象に残った授業であり、それと同時に未来の自分の礎になるであろうと強く感じた授業でした。

私がこの授業を通して学んだことはいくつかあります。

一つ目は、献体の精神についてです。臓器提供に関しては考えたことがあり、

両親と話し合ったこともあったのですが、献体に関しては恥ずかしながら考えたことがありませんでした。今回肉眼解剖実習に臨むにあたり、医学の進歩のために高い志を持ち献体なさった方々や、深いご理解とご協力をくださったご遺族の方々の存在を知り、畏敬と感謝の念を抱かずにはいられません。ご遺体にも多くのことをお教えいただき、本当に偉大な先生のような存在でした。

二つ目は、医学的知識についてです。普段は教科書でしか見ることができない人体構造が実際にどのようなようになっている



献花式 (R2.1.8)

のか学ぶことができるのは、この授業が初めてでした。また、CTやMRIといった医療画像も授業内で取り入れられており、そこで捉えたイメージと実際の解剖で得た感覚との乖離を少しずつ修正していくことで、解剖構造の感覚を多少なりとも掴むことができたのではないかと思います。メスやメツツェン^{*}といった道具の扱い方を学ぶことができたのも、自分の大きな財産になったと思います。肉眼解剖学は実習以外の座学の部分でも非常に上手くカリキュラムが組まれていて、その知識をもとに実習に臨むことが

できたので、大きな学びを得ることができました。熱意ある教員の方々に頭が下がる思いです。

三つ目は、心構えについてです。献体なさった方々に失礼のないように責任感や自覚を持って実習を全うすることができ、精神的に成長したと思います。また、医師として感じるであろう葛藤に類すると思われるものも経験することができました。他の班より自分たちの班の進捗状況が思わしくない時にもきちんと実習書をとばすことなく実習を行えるかどうかというのは、医師として決して手を抜くことなく治療にあたることのできるかということに繋がっていると感じました。また、班単位で小テストを解く際に様々な意見を出し合って一つの結論を出すという過程は、実際の医療現場でも重要なものであると思います。チームの中でそれぞれ違う視点を持つ者同士で考えを出し合うことで、一人では辿り着けなかった結論に達する場面というのは少なくともいと想像できませんでした。また、解剖実習内で怪我をしてしまう人も見受けられ、慣れからくる油断や熱中して盲目になるこ

とがいかにも危険であるかを身に染みて感じました。

以上のように非常に多くのことを学び、かつ印象に残る授業でした。医学の発展のため、あるいは私たちが良い医師になるためにご遺体を提供してくださった故人の方々やご遺族の方々の存在を決して忘れることなく、これからも一人前の医師となるため邁進していく所存です。

誓い

高橋 陽香

初めてご遺体のお顔を見てその冷たい身体に触れたとき、果たして私はこの方の生前のご期待に添えるような学びができるのだろうかという強い不安に襲われた。メスを入れて作業は進んでいくが、死を目の前にして初めてわかる命の重みで押しつぶされそうだった。解剖実習初日の帰り道はあまりの恐怖や緊張で具合が悪かった。家で父が「娘がご遺体で勉強させていたでいるし、自分も医療従事者だから解剖実習の重要さがよくわかる。死後は献体してもいいかもしれ

ない」と言っていた。月日が経つごとに解剖し尽くされていくご遺体を見て素直に思うのは、ご本人もそうだが、ご遺族の方は肉親を誰かも知らない若者に解剖させることをなぜ許せるのかということだった。実習が始まる前に、新聞記事に載っている心ない医学生の話を見せられた。当然、献体することを考える上で様々な情報を集めていらっしやるはずだから、そのような事実もわかってしまう。それをわかっていながらご自分の身を差し出すご本人、それを許可した親族の方々はなんて崇高な精神をお持ちなのだろう。そこまで考えが及んだとき、ご遺体に対する感情がそれまでの緊張や恐怖から深い感謝へと変わっていった。

知識面でも解剖をしなければわからない重要なことがいくつもあった。

*アトラスや実習書で人体の構造はわかるといえはわかるが、本物を見ると立体構造に関する情報が不十分だと感じた。



将来CT画像を見たり手術をしたりする上で大切なのは人体の構造の空間的な把握だ。それがよくわかっているから、実習の際は割出しなくてはいけない構造を傷つけてしまったり、見つけるのに時間がかかったりする。本当の患者さんに対し、このようなミスは許されない。解剖実習は一度きりで、次実際に人体を見るのは研修医になってから本物の患者さんを相手にするときだという事実は重かった。だからこそ、この機会に感謝し、眼に焼き付けようと思った。

また、解剖する上で個人差の事例もたくさん知ることができた。割と太い神経がなかったり、動脈の分岐の仕方がまちまちだったり、手術した跡があったりする。そのような例も知っておかないとミスにつながるため、良い機会になった。一番驚いたのは、大殿筋がよく見えなかった事例だ。他の班の同級生が、大殿筋が見つからないと言っていて、大きな筋なのにわからないということがあるのかと思いい見に行ってみると、本当にわからなかった。寝たきりの生活が長かったのかもしれない。自分の班に帰ってき

て再度じっくりご遺体を眺めた。とてもしっかりした体つきで、なくなる直前までひよっとするとスポーツなどしていたのかもしれない。ここに来て初めて生前のご様子を想像し、ご本人やご遺族の想いに応えるべく、気合いを入れ直す機会にもなった。

他にも、解剖を実際に行っていく際の手技・胸腔ドレナージ・気管挿管のやり方といった技術や、コミュニケーションの学びの機会もいただいた。とにかく学ぶことの多い三ヶ月間だったが、その三ヶ月間で私は確実に変わった。ご遺体の先生はもちろん、解剖学の先生方、職員、その他大勢のご協力なしでこの実習は成り立たない。このご恩を社会に返せるような立派な医師になることを固く誓った。

解剖実習を修了して 変化したこと

鈴木 孝一郎

解剖実習を修了して特別でできるようになったことがあるかと友人や家族に聞か

れると、残念ながら目に見える形でできるようになったことは何一つない。病気の鑑別や診断などはまったく行えず、病気の治療法などは言うまでもなく知らないままだ。おそらく「医学生らしいことは何かできないのか？」と聞かれると「まだそこまで習っていない」と言うしかないだろう。

しかし、だからといって全く何も変化がないかと聞かれれば、大いに変化があった。

第一に人体の中を実際に観察したということだ。それまで「体の中には、心臓・胃・十二指腸……」と教科書的に理解はしていたつもりでの体内の構造が直に観察してみると、そのような教科書的な学習だけではまったく理解できていなかったことが実感できた。十分に予習してきたつもりでも、どこにその日観察するべき血管や神経、臓器があるかすぐに見つけられなかったため、その観察するべき器官を見つける過程で十分に理解していなかった構造が多く発見されたためもある。ここから、医師として勉強していくには教科書だけでは十分ではなく、実際



実習修了学生と白菊会役員らとの懇親会 (R2.1.8)

の人体、病氣と照らし合わせながら勉強しなければ応用できる知識にならないのだと強く理解できた。

第二にご遺体に手袋越しにはあるが直に触れたとき、人体が物のように感じられてしまったという経験だ。はじめに実習を開始したときは自分と同じ人間を解剖しているという感覚が生々しく、なんとも言えない畏れのようなものを感じていた。しかし、一月ほど実習が進んだときに、そのような畏れが薄れて、まるで自分と同じ人間ではなく何か別の物

体を相手にしているような感覚になっていたのだ。そのとき、周りの人間もなんだか教科書と同じ構造を持った物体に感じていたことを覚えている。これはいま思うとかなり恐ろしい体験であるが実習を経験しないと感ずることのない貴重な経験なのだろう。ここから学んだ教訓は、たとえ何百人の患者さんを相手にしても自分と同じ人間なのだという意識を強く持って、真摯に治療を行うよう心がけないと患者さんが心のない物体に見えてしまう危険性があるということだ。

第三に医学用語を使って会話することと、手持ちの知識で議論に参加することに抵抗がなくなったということだ。いままでも、同級生と会話するときに医学用語を使う機会などまったく存在せず、しようと思っても通じなかっただろう。また友人と医学の議論をする機会なども全くなかった。しかし、実習では医学用語を使わないと具体的な手順の指示ができないので、否が応でも専門用語を何度も使うことになり、また、実習で行き詰まる何度も「ここは筋だからこの神経は：神経じゃないか」など議論を行う機会

も何度もあった。この経験のおかげで頭の中にある知識を引き出しながら議論を行い問題解決するスキルが磨かれた。

第四に医学部の他の講義や教科書が格段に理解しやすくなったということだ。やはり人体を学ぶ上で解剖は基礎をなす知識であるから、知らなければこの後どんなに分かりやすい講義であっても理解することはできないだろう。そのような意味で、この解剖実習は医学の基礎を固められた極めて重要な経験であったといえる。

最後に、献体してくださった方々とそれを支えて実習を準備してくださった白菊会の方々と先生方のおかげで解剖実習を行えたことから、医師を一人育て上げるのにかかる労力の大きさとその苦労を未来の医療のために負担してくださる方々の存在を理解できたことである。そして、その労力に報いる事ができるように、これからも日々良い医師になれるよう研鑽を積み重ねなければならないのだと強く意識できた。

以上が解剖実習を終えて自分の中で変化したことである。確かに、どれも目に

見えるものではなく、誰か病気で苦しんでいる患者さんを治療できるものではない。しかし将来医師として働く上で必要不可欠な変化である。この経験は何十年経っても忘れることはないだろう。

解剖実習を終えて

浅沼 彩太

はじめに献体してくださった皆様、協力してくださったご遺族の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

解剖実習は医学部に入って初めて人の体に実際に触れて学ぶ授業でした。解剖実習ではご献体のことを、人体構造を直接教えてくださるといふ意味で先生と呼びます。初回の実習で白布をとって最初にご献体の先生に直面した時、献体してくださった方の期待とそれに応えなければならぬという責任を感じ、とても身の引き締まる思いでした。解剖の授業が始まった時点では、解剖実習が最初の身体の正常構造を学ぶ機会だったこともあり、知識が予習してきたことしかないというところもあって、その責任に押しつぶ

されそうにもなりましたが、身体の構造を教科書よりわかりやすく教えてくださるのがご献体の先生であると気づいてからは、わからないことがあるのを恐れずに積極的に疑問をぶつけてご献体の先生に答えをいただくようになりました。

解剖実習は私たちが初めて患者さんをもつ機会であるだけでなく、チーム医療を経験する最初の間とも言われています。班分けはランダムでほとんど話したことのないメンバーとともに解剖を進めていくこととなります。はじめはとてもぎこちなく、なかなか連携もうまく取れていませんでしたが、回を重ねるにつれてそれぞれが班に置ける自分の役割を自覚してスムーズに解剖を進めることができるようになっていきました。解剖実習でもに学んだメンバーは皆同じような背景を持つ同じ世代の人たちですが、実際に病院で連携を取らなければならぬ人は当然ですが、異なる世代で異なった背景を持つ人たちですから、医者として働く時に他の医者や看護師とうまく連携を取るのには簡単ではないのだろうなと感じました。

解剖学実習の最後の回は納棺と実習室の掃除でした。ご献体の先生を棺に納めて自分たちが使った道具や実習台を掃除している時、実習の最中、常に感じていた期待と責任に向き合えていたか考えました。解剖を通して私は解剖学的な知識だけではない様々なことを学ぶことができたように思います。それはチーム医療の基礎だとか医師になるのに必要な心構えなどで、はじめに白布をめくった自分と比べて最後に棺に蓋をした自分は大きく成長したと胸を張って言えるでしょう。

解剖実習はご指導いただいた大学の先生だけでなく、白菊会の皆様、ご献体してくださった先生、ご遺族の皆様など多くの方々に協力していただいて成り立っているということを、実習を通して実感しました。皆様の期待に応えられるよう、これからも勉学に励んでより良い医者になれるよう努力していきたいと思っております。最後にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げますとともにご献体の先生方のご冥福を心よりお祈りいたします。

CALの理念は新たな段階へ！

文科省 課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択

千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 講師 鈴木 崇根



献体を最大限に活用させて頂き、より良い医療の実現へ向けて平成二十二年（二〇一〇年）に設立された千葉大学のクリニカルアナトミィラボ（以下CAL）。

あるいは解剖学者の研究にしか用いる事はできないと言われておりました。しかし、様々な医療現場の問題点を解決するため、最前線で戦っている医師にも門戸を開放すべきであるというのが私たち千葉大学の考えであり、CAL設立の原動力でした。

手術の基本は解剖をよく知ることから始まります。それだけでなく、最近の手術は傷が小さく済む術式が増えてきました。この方法は特に手術の指導において大きな問題を抱えています。執刀医以外に術野（手術している狭い範囲）が見えなかったり、素手ではなくロボットの手を使って触れる場合、臓器の柔らかさ・脆さの感覚が助手では身につかないのです。指導医の手術を直に見て学ぶことも、自分の手技を指導医が素早く修正することもできないため、外科医は新しい技術

を身につけるために過度なストレスに悩まされてきました。

また、もっと手術器械はこうした方が使いやすいのではないかと、この現場の意見が反映されて医療機器は開発されません。その器械が人体の中で執刀医の狙い通りに安全に動くかどうか、医療機器メーカーや工学研究者の手により繰り返し検証作業が必要です。ところが現状では国内で実施するための体制がないため、動物で検証するか、海外で献体をお借りして検証するしかありませんでした。

実際の手術で指導を受けるOn the Job Trainingだけでなく、¹⁾遺体を使って手術・解剖を学べる教育の機会を与える。現場の意見がすぐに反映され、一日も早く安全に患者の手術に使える医療機器を開発できる研究の機会を与える。



どちらも、患者のために、大学そして行政が解決しなければならぬ問題だったのは明らかでした。

我々の活動が実を結び、とうとう行政もCALの普及へ向けて支援を始めました。厚労省が、平成二十四年（二〇一二年）から「実践的な手術手技向上研修事業」、令和元年（二〇一九年）から県による国庫補助事業「実践的手術手技向上研修実施機関連整備事業」が始まりました。全国の大学が申請し、今では約半数の医学部にCALが設置されたこととなります。



また、令和元年には文科省が指定する「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の枠組みの中で、長い歴史の中で初めての領域である「外科解剖・手術領域」が定められ、課題を解決できるプログラムを提供できる大学が募集されました。全国から九つのプログラムの申請があり、北海道大学・千葉大学・京都大学の三大学で申請した「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成」が見事採択されました。プログラムの内容は、解剖に関する

CAL利用実績（参加人数）

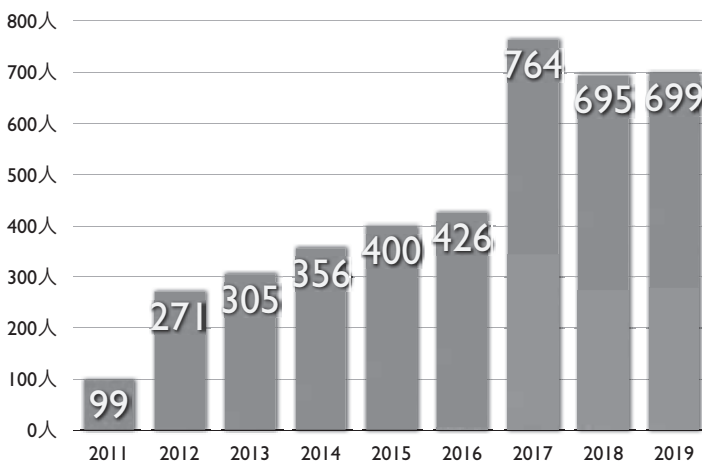


図1

る法律・ガイドラインなどの関連法規や、外科教育の手法、医療機器開発を行うための企画段階から承認を得るまでのプロセスを日本初の総合講義として体系化するというものです。しかもこの講義は外科系、工学系の大学院生のみならず、医療機器開発企業の研究者の聴講も可能とします。ご遺体を取り巻く全ての環境を理解している人材をきちんと育成することが、献体者の願いやご遺族の気持ちを裏切らない事に繋がるといふ私たちの考えを文科省も最大限に評価してくれました。令和三年度末までにすべての体制を整えるべく現在準備を進めています。

実際に運用を開始した二〇一一年以降の利用者数は図1にあるとおりです。患者さんに最高の手術を受けてもらいたいという医師達の真剣な眼差しは、この会報に掲載しているCALの写真をご覧頂ければ判って頂けると思います。

千葉大学では、これからも献体という究極の善意による学びの機会を提供し、千葉県そして全国の患者さんに還元していきます。今後とも変わらぬご支援をどうかよろしくお願いいたします。

CALに参加した医師の感想

イタリアでの実習経験が日本でも!

〜頭頸部手術手技セミナー

(中耳側頭骨編)に参加して〜

千葉市立海浜病院 耳鼻咽喉科

大塚 雄一郎

耳鼻咽喉科医師となってもう二十二年になります。指導熱心な先生の強い勧めでイタリアのピアチェンツァという聞きなれない町で中耳側頭骨の実習に初めて触れたのが七年前でした。それまでは手術書を読み込み、学会に何度も足を運んで講習を聞いても、頭ではわかつたつもりでも体が覚えた実感がありませんでした。中耳側頭骨には蝸牛、三半規管、顔面神経、内頸動脈、静脈洞、頭蓋底などの危険部位が存在し、実際の手術で損傷すれば取り返しのつかない後遺症を残してしまいます。それらの重要器官が立体的にどのような位置しているのか?そしてそれら重要器官を損傷しないように手術を進めるには手術器具をどのように使うべきなのか?そして実際にそれらの重

要器官を損傷するとどのような見えるのか?手術に必要な知識・情報が文書からでは身につきませんでした。それがイタリアの実習で、これまで詰め込んだ数々の知識が結晶化するのが分かりました。「百聞は一見に如かず」を実感、感動した瞬間でした。



欧米豪州の手術センターでは解剖施設が併設され、難易度の極めて高い手術を行うにあたり事前にシミュレーションを行っていきます。その結果、日本では考えられないほど多くの高難易度の手術が施行されています。市中病院に勤める自分はそのような難易度の高い手術を行うことはありませんが、日常の手術をより安全に行うためにもイタリアで体験した実習が日本でも不可欠だと痛感しました。

それから七年を経て千葉大学でも中耳側頭骨の実習が初めて開催されることになりました。そして中耳側頭骨に熟知した先生を招聘することができました。今回の手術手技セミナーでは招聘した先生の素晴らしい手技を拝見するとともに、後輩の先生を指導させて頂きました。若い先生は勉強熱心で手術名や用語についての知識は豊富です。しかし手術の実際の手順や正確な解剖は理解できていません。

若い先生が目を輝かせながら「教科書に書いてあった内容はこういうことだったんですね」と何度もコメントするのを見て、七年前の自分の感動を思い出しまし



た。そしてこの若い先生が、数年後には現在の自分と同じ気持ちで後輩の指導にあたる姿が目に見え、実習の開催に尽力・協力してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいになりました。指導してくださった先生、CALの先生、機器を提供してくださったメーカーと担当者の方々、準備をしてくれた後輩の先生、そして何よりも御献体をしてくださった

方々と白菊会の皆様には感謝しつつももしかれません。

皆様のお気持ちに伝えるべく、今回の実習で学ばせていただいたことを現場で活かして、より多くの患者さんにより安全でより良質な手術を提供していく所存です。そして後進の先生への指導を通して千葉県全体の中耳側頭骨手術が向上することを切に願います。

出血がないからこそ

じっくりと学べました

千葉大学医学部附属病院

形成美容外科専攻医

高 得 榮

第一回千葉形成外科手術手技（cadaver workshop）が開催され、今回私は設営の段階から参加させていただきました。ご遺体に触れるのは学生実習以来であり、非常に良い経験をさせて頂きました。

今回のworkshopでは、三つのグループに分かれてまずは上下顎骨切りとプレート固定を行い、その後各グループの自由テーマで解剖を行うという流れでし



た。ご遺体は実際の手術とは異なり出血がないため解剖が明確に目視することができ、手術手技を行っているのがどの部位なのか正確に確認しながらすすむことができ大変勉強になりました。今回の上下顎の骨切りというテーマ自体も、まだまだ経験の少ない私にとっては実際に自分が執刀する際に有益な経験になったと



思います。また、自由テーマの時間では、普段なかなか行えない手技、神経やSMA Sなどの解剖学的構造を確認することができ大変有益でした。

今回のworkshopを通して解剖学の興味深さを実感したとともに、臨床を行う上での解剖学の重要性を再認識すること

ができました。我々形成外科医は全身の皮膚を扱う科であり、その部位ごとの解剖の熟知が今後自分に必要であると考えられるきっかけになったと思います。今後手術に際して、また勉強に際して疑問に感じたことを心にとどめておき、それを第二回が開催されたときの自分のテーマにしたいと考えております。

最後に今回workshopを企画してくださった秋田先生をはじめ、ご協力してくださった千葉大学環境生命医学教室並びにClinical Anatomy Labの先生に感謝したいと思います。そして、お体を献体していただいた方々に改めて敬意と感謝の意を表し、ご冥福をお祈りしたいと思えます。本当にありがとうございます。

※SMA S 顔面の皮膚の下にあり、多数の表情筋を広く覆う膜様組織。

ご遺体から学んだ経験が

脊椎外科医への道に

筑波大学整形外科 大学院一年

江藤 文彦

この度、千葉大学で開催された第五回筑波千葉カダバーワークショップに参加

いたしました。筑波大学からは山崎正志教授をはじめ十四名が参加し、前日の準備や講義、症例検討会から千葉大学整形外科頸椎班の先生と共に勉強させていただきました。

当日ははじめにクリニカルアナトミーラボの鈴木崇根先生から解剖に関する法律や本邦における現状と問題点などについてご講義いただきました。

午前は後期研修医をはじめとした若手の医師が手術を実践し、大学院生やスタッフの先生が指導をしながら解剖や手技の再確認をしました。私自身はこれ度三回目の参加になります。はじめて参加した八年目のときに大学病院や関連病院の先生に手厚くご指導いただいた経験が脊椎外科医を志すきっかけの一つになりました。そのため、今回参加していた若手の医師たちも大きなモチベーションにつながったのではないかと思います。

午後は筑波大学と千葉大学に分かれて主に大学院生が実習させていただきました。私は事前に希望していた頸椎疾患に対する前方アプローチと除圧操作に関して國府田正雄准教授に細かくご指導いた

いただきました。また、損傷すると重篤な合併症につながりうる神経や血管の解剖についても、写真や動画に比べてはるかに実践的な知識を習得できました。今回の実習で得た知識と手技を実際の手術に還元すべくこれから精進していきたいと思っています。

このような貴重な機会をくださいましたクリニカルアナトミーラボの鈴木崇根先生、古矢丈雄先生や牧聡先生をはじめとした千葉大学整形外科の先生方に感謝いたします。

最後になりましたが、ご献体いただきました白菊会の皆様にご心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

理学療法士として

臨床解剖の深淵に迫る

西川整形外科 理学療法士

高田 裕佳

今回私は整形外科Cadaver Workshop in Chibaに参加させていただきました。

一日目は千葉大学整形外科の松浦佑介先生、かつしか江戸川病院の理学療法士の我妻浩二先生より、エコーの初動操作



を始め、神経走行や骨・関節・筋など組織観察の講義を受けさせていただきました。エコーの実技デモンストラーションでは、参加者同士の体を使い、静的、動的な組織観察を行うことで、神経と筋、関節運動の関係を把握することができました。臨床で多く遭遇する絞扼性障害や、肩関節疾患などの治療に大いに役立つ内容であり、エコーの有用性を確認することができました。臨床現場では、エコーの活用により、局所の解剖学的評価がより正確となり、患部へのアプローチ、さらに治療直後の即時効果の判定が可能となります。臨床において、患者さんと治療効果の確認を視覚的に共有できることは、非常に有用であると感じました。

二日目には、知識・経験豊富な上肢専門の先生がご遺体にエコーをあてた上で、解剖をしてくださり、かつてない貴重な経験をさせていただきました。具体的印象に残ったものとしては、鎖骨下から腕神経叢の枝を一つずつ確認し、末梢に向けての各神経の走行を遠位まで確認することができたことです。我々コメディカルは、通常、画像や体表上、または解剖の教科書上でしか組織確認を行うことができません。しかし、初日にエコーを通して見た神経・骨・筋の解剖が、実際のご遺体の解剖とリンクして直接確認できたことは、解剖学の深い理解に繋がったと感じております。

このような機会を与えていただいた環境生命医学の鈴木崇根先生、整形外科の松浦佑介先生とスタッフ、エコー業者の皆様にご厚くお礼を申し上げます。また何より、ご献体された方やそのご遺族の皆様にご心より感謝いたします。このご厚意を無駄にすることなく、学んだことをもとに勉学に励み、少しでも患者さんに還元していけたらと思っております。本当にありがとうございました。

一人一人が感謝の言葉を伝えた「慰霊の日」

— 医学部解剖慰霊祭は中止 —

新型コロナウイルスによる医療崩壊危

機が近づいていた四月、「第九十三回千

葉大学医学部解剖慰霊祭」は中止が決定

されました。当然のことながら、千葉大

学医学部としては、毎年五百名以上の参

列者となる慰霊祭をどうにかして開催し

うる方法を模索しておりました。当時、

密集しないよう参加人数を減らしての開

催、数か月の延期、一年の延期、開催中

止などの選択肢から検討していました。

しかし、緊急事態宣言が発令され、学生

はキャンパス内立ち入り禁止、教員・職

員も病院勤務以外は自宅待機を強いられ、

必要なマスクなどの个人防护具の入手も

厳しい状況でしたので、規模の如何を問

わず具体的な計画を立てる事は困難でし

た。さらなる医療環境の悪化も考えられ

る中では、数か月の延期はもちろん、翌

年にまとめて二年分という方法も問題の

先送りとなるだけで根本的な解決とはな

りません。それ故、苦渋の決断でしたが

慰霊祭の中止を決断するに至りました。

その一方で、私たちは数年間もお預か

りしたご遺骨だけは一日も早くご遺族の

を後押ししてくれていたのだと感じてい

ます。医学部正門前にある「献体の碑」

の前に小さな祭壇を設け、中山俊憲医学

部長、森千里教授（環境生命医学）、小川

明宏事務部長が列席されてセレモニーが

始まりました。最初に、令和元年度に献

体された皆様の「ご法名録奉納」が森先

生により行われ、関係者を代表して中山

先生から追悼の言葉が贈られました。徳

久剛史千葉大学学長からの追悼の言葉と、

学生を代表して医学部三年稗田葉月さん

が綴った「感謝のことば」も合わせて捧

げられ、列席された三名の献花を経てセ

レモニーは終了しました。その後三時間、

献体の碑の前に献花台が設置されました。

医学部や大学病院で勤務している教員・

医師も、集団にならないように配慮しな

がら業務の合間に献花台を訪れ、医学の

ためにお体を提供された献体者への感謝

の言葉を伝えることができました。キャ

ンパス封鎖により在宅学習を強いられて

いる学生にも、「一同に会して感謝を伝

える事は叶わないけれど、自宅で時間を

設けて、ご遺体の先生に感謝と今後の決

意を述べるように」と伝え、各自が思い



一輪の白菊に思いを込めて



上段左：ご芳名録を奉納する森教授
中段右：追悼の言葉を捧げる中山医学部長
中段左：献花する小川事務部長



思いに追悼の時間を過ごしました。
ご遺族の皆様には花が捧げられた「献体の碑」の写真と、追悼そして感謝のこたばを同封しお送りさせて頂いています。ご遺体で学んだ学生・医師達が、得たものを必ずや明日の医療に還元し、皆様の善意がここで留まらず、どこかで誰かの命を救うことになる信じております。
長い間、お体をお預かりしまして本当にありがとうございました。

(鈴木 崇根 環境生命医学講師
千葉白菊会副会長)

追悼の言葉

千葉大学学長 徳久 剛史



令和二年度千葉大学医学部慰霊の日式典に当たり、謹んで御霊前に追悼の意を表わし、御霊のご冥福を、お祈り申し上げます。

近年の医学・医療は、革新的な科学技術の開発により著しく進歩しています。特に、二十世紀後半に遺伝子操作法が開発されたことにより、これまで原因が不明であった疾病の発症機序が分子レベルで明らかにされるようになりました。二十一世紀に入ると、この様な医学研究の成果が疾病の治療に応用されるようになり、これまで不治の病とされてきた悪性腫瘍などにも著しい治療効果が見られるようになっていきます。最近では人工知能・AIが急速に進化してきており、疾病の診断は医師に代わってAIが行う時代がすぐそこまで来ています。そして将来は、i p s細胞などを用いた再生医療技術などの進展と普及により、私達の健康寿命が大きく改善されていくことでしょう。

このような変化の著しい医学・医療の世界にあって、医師に求められる能力も

多様化し、かつ専門化しています。そのため医学部における教育においても、最先端の医学・医療の知識や技術ばかりでなく、工学や数理・データサイエンスなどの異分野の知識や技術を教授することが必須となっています。しかし同時に、医療が進めば進むほど、医師養成の原点である「深い人間愛に基づく生命の尊厳と医の倫理」を教授することの重要性も大きくなっています。

千葉大学医学部では、病める人々の苦しみを理解できる医師の養成を基本として、疾病の病因説明や新しい治療法の開発を目指す優れた医療人や医学研究者の育成に向けた教育を継続してきました。そのような医学教育の中でも、賜りましたご遺体により「解剖学実習」は、最も基礎的な、そして最も重要な教育科目となっています。医学生は「解剖学実習」により、ご遺体から多様な人体の構造を正確に学ぶとともに、教科書からは決して得られない「生命の尊厳」や「医師としての使命感」を深く心に刻み込むこととなります。

さらに近年では、医師、薬剤師、看護師や保健師などの医療人養成にむけた教育として、職種間の相互理解に向けた「Inter-professional Education」が行われるようになっていきます。千葉大学でも、将来医療チームを組むことになる医学部薬学部、看護学部の学生に対して、一年生の段階から「Inter-professional

Education」を行っています。その一環として、看護学部の学生には「解剖学実習」を見学実習としています。

人生の締めくくりとして「解剖献体」に自らを捧げられた皆さまの尊い志に、心からの敬意とともに感謝の意をお伝え申し上げます。そして、ご献体を支持していただきましたご家族の皆さまに、心からの御礼を申し上げて追悼のことばと致します。

千葉大学医学部長 中山 俊憲



本日ここに、令和二年度千葉大学医学部慰霊の日式典を執り行うに当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

近年の医学は日々大きな進歩を遂げておりますが、こうした医学の進歩は日々たゆまざる研究や教育が支えています。とりわけ、人体の複雑な構造と働きを理解する解剖学が医学の進歩にとって大きな礎になっていることはいうまでもありません。

医学教育の最初に行われるのが解剖学であり、人体の構造と仕組みを正しく理解すること、そして、医療に携わる人間としての心構えと倫理観を学び、医学の崇高な目的を自覚するようになります。さらには、我々人類の病気との戦いにおいて、その新しい診断技術や治療法を確立する上で極めて重要な役割を果たして

おります。

医学教育はもちろん、医学の進歩・発展のために尊いご遺体を捧げられた諸霊位並びに同意いただきました御遺族の方々のご理解ある志に対して、ここに深甚なる敬意と感謝の念を捧げるものであります。

本医学部は、さらに研鑽の歩を進め、人類の健康と福祉に貢献し、もって諸霊位と御遺族のお志にお応えすべく、努力を重ねてまいる所存でございます。

ここに厳粛に式典を営み、百二十二名の諸霊位をお慰め申し、追慕の念を新にして、弔意の誠を捧げたいと存じます。

在天の諸霊位には、私どもの意をご照覧下され、安らかに永遠の眠りにつかれますことを心より祈願申し上げます。

感謝の言葉

医学部三年 稗田 葉月



はじめに、令和二年一月八日の納棺式をもちまして、肉眼解剖学実習が無事に修了致しましたことを、ここに報告致します。

この実習は十月から始まり約三ヶ月間にも及びました。恥ずかしい話ではあり

ますが、自分にご遺体と接しているという事を心から感じたのは、実習が始まって暫く経ってからのことでした。白布をとってご遺体と対面した時は、緊張の方が何倍も強く、頭で理解はしていたものの実感は伴っていませんでした。背部の実習を終え上肢を始めるために、私はご遺体の女性の手を持ちました。ちょうど握手をするような形でした。たくさん物を作り、触り、多くの人と握手を交わしたであろう彼女の手を握った瞬間、私は彼女の人生や家族を想像しました。そのとき初めて、彼女が一人の人間として生きたという当たり前の事実を実感し、献体という行為の尊さに心から感謝することができたのです。

彼女の体にはたくさんさんの病の痕跡が見られました。私たちは実習を進めながらその痕を見つける度に、「痛かっただろうね」「大変だっただろうね」と彼女の生前の様子を想像しました。淡々と解剖を進め知識の習得に集中する方が、正直なところ楽なのだと思います。しかし、闘病生活の苦しさ、忌むべき「人の死」、満たされる知的好奇心との葛藤、献体してくださった事への感謝など、様々な思いと向き合いながら真摯に実習を進めたからこそ得るものが多かったと私は考えます。最後の授業で解剖学の先生が仰っていたように、医師になると毎日診察と治療というルーティンワークを繰り返すことになりません。たくさんさんの患者さんに対

して感情を麻痺させたまま流れ作業で医療を行うのではなく、一人一人への疑問や興味、共感をもって心を動かしながら患者さんに向き合うことは想像するよりも難しいはずですが、しかし、それこそが機械にも人工知能にも真似することができない、心のこもった医療に必要なことだと思います。私はこの実習を通じて、患者さんと一緒に作り上げる医療の心構えを学ぶ事ができました。

解剖学実習は、常に死体損壊という重罪と隣り合わせです。献体することを決めたご本人とご家族の尊い志、そして私たち医学生への感謝の気持ちと学習への情熱が、この三ヶ月を崇高な学びへ昇華させます。どちらも目には見えないものですが、私たちは長い実習を通してこの二つの気持ちを確かに織り上げることができたと思っています。ご遺体の先生から学んだ医師としての心のあり方を忘れずに、いつかこの布を白衣として身に纏う日を目指して私たちは新しい一歩を踏み出します。「死」から「生」が生まれるが如く芽生えたこの気持ちと共に、これから勉学に励むことを誓います。

最後に、献体してくださった方とご遺族に深い感謝の意を表すとともに、故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。必ず立派な医師となるので、私たちのことをどうか温かく見守っていただきます。

解剖学実習ガイダンス

十月四日(月)、令和元年の解剖学実習が始まりました。今年を受講生は、二年生が百十四名、学士入学の三年生が三名です。医学部第一講義室で十時三十分から行われた解剖学実習ガイダンスには、例年通り白菊会役員も参加させて頂きました。



ガイダンスは森千里先生の講義で始まり、献体についてのビデオ学習へと続きます。

次に千葉大学へ献体をしている団体として千葉白菊会が紹介されました。献体を知ってもらうために、白菊会役員が学生の前で毎年話をしていきます。

今年酒井理事が献体をしたお母様の思い出を、青柳は主治医の先生への恩返しのためと、それぞれの献体の動機など話しました。最後に大澤会長が「献体した先輩たちの願いは、皆さんのお陰で今日叶えられます。ありがとうございます」と学生への感謝を述べました。そして、学生や医師の勉強のためにと、献体が「無条件・無報酬」で行われていることを強調しました。また、献体登録するには親族全員の同意が必要のため、簡単に出来ることではないとも話しました。学生たちは思わぬ感謝の言葉に怪訝な表情でしたが、壇上の会長を真っすぐに見つめて聞いていました。

地下の解剖実習室では、ご遺体が学生を待っています。午後から始まる実習を全員が無事に終えて、良いお医者さんや医療者になってくださることを、きつのご遺体も願っているはずですよ。

(青柳信子)

第十回白衣式に出席

昨年十一月二十九日、千葉大学医学部の第十回白衣式が開催され、白菊会からは大澤会長が出席しました。試験に合格して初めての臨床実習を開始する百十八名一人一人に白衣が着せかけられ来賓や教職員から激励の言葉を受けました。壇上では医学生代表が誓いの言葉を述べました。



学生との懇談会

令和二年一月八日（水）夕刻、朝方の激しい雨も上がり冷たいきりりとした空気の中、納棺式を終えた百十七名の医学生が「献体の碑」の前に集まり大澤会長の挨拶のあと、森先生による献花が行われ、併せて学生達の深い礼拝で終了いたしました。

その後続いて白菊会が用意した懇親会が学生食堂で行われました。なごやかな懇談の中、皆さん学業と共にサークル活動にも積極的に参加、卓球・水泳・空手等アルバイトも併せ文武両道を貫く姿にふれ、また社会経験を経てから、また他



の大学を終了してから学士入学をして医学を学ぶ姿勢と話に頼もしく感動いたしました。

大澤会長、森先生に続き鈴木崇根先生より白菊会五十周年記念に寄贈された「画像供給システム」が解剖学実習で非常に重要な役割を担ってくれているとのこと、今ではこのシステムのない解剖学実習は考えられない」とのお話にこのシステム寄贈が千葉大学医学部教育に貢献出来た事をこの上なく喜ばしく思います。

今年も、一つのことを成し遂げ達成感と充実感に満ちた学生さん達に大きな期待と希望を頂きました。
（水野佳子）



名簿奉納式

例年白菊会総会後に行われていた名簿奉納式は本年総会、解剖慰霊祭が共に中止となったため、令和二年九月二日に白菊会役員により執り行われました。鈴木和男副会長の進行により、大澤会長が平成三十一年四月一日から令和二年三月三十一日まで成願された八十名のご芳名を献体の碑の中に奉納し、参加者全員がこの碑に眠るすべての御霊に対し黙とうを捧げました。

昭和四十年に活動を始めてからの成願者は二、四八四名となりました。

（伊藤）





会員の不安を解消

献体から 遺骨返還まで

死亡の連絡
043-222-7171

献体は、ご家族（連絡者）からの連絡が頼りです。
最近、献体登録をご家族が知らず献体出来なかった会員が増えています。皆様もご注意ください。

献体の引き取り

大学から委託された葬儀社の車がお迎えに行きます。
死亡診断書のコピーと埋火葬許可証を用意してください。
引き取り時、棺は不要ですが、葬儀等で使用された場合はそのままでもかまいません。（P44参照）

献体の防腐処置

腐敗を防ぐ為に献体には防腐処置が施されます。その後、ライヘパック（ご遺体保存用袋）で密封されて、縦横45cm、奥行き200cmの保存施設の中で解剖学実習を待ちます。

遺体保存中

ここから解剖学実習が終了するまで、献体は生前の名前ではなく番号が割り当てられます。

解剖学実習・CAL

学生には献体者の情報は一切知らされません。解剖しながら病状などを推測することも勉強になっています。

なお、千葉大学では、献体は医師の手技向上のためにも使用されています。（CAL）

納 棺 式

解剖学実習最終日、学生たちは心を込めて献体を棺に納め、自費で用意した花束を供えて冥福を祈ります。
棺は大学で用意しています。

火 葬

納棺後、献体は番号から本名に戻り、大学職員が付き添って、千葉市斎場で火葬されます。
火葬に係る費用は大学が負担しています。

遺 骨 返 還

大学のご遺骨返還式、又は遺族の希望する日に遺骨が返還されます。

献体は、大学がきちんと管理していますので他人の遺骨が返還されることは絶対にありません。

白菊の広場

私と献体



二〇一九年度は一〇七名の会員が加入しました。入会申込時に提出頂いた献体登録の動機をいくつかご紹介します。

人生最後に何ができるのか

千葉市 日野 桂子

私は現在七十一歳です。一般人として生きて人生最後に自分以外の人の為になんができるのかを考えました。以前にお孫さんが難病にかかり「名医」と呼ばれる方の診察を受けようと申し込んだら二、三年先だと言われ、ショックを受けたという話を知り合いの方から聞いたことがあります。現代は医学も日進月歩、様々な素晴らしい医療機器が開発・製造され使用されていると聞きます。どんな素晴らしい機械も動かすのは人間。医師の皆様やこれから医師を目指す方々が医療技術向上のために練習したり学んだりする

のに私の身体が少しでもお役に立てれば献体する甲斐があります。

医学部受験生の多さに期待

市川市 林 宏

私と家内は、若い時から運転免許証と保険者証の裏の臓器提供意思表示に提供の意志を表してきましたが、最近になって身体の臓器の一部分の提供でなく、身体全体を提供した方が、医学の発展に役立つのではと思うようになりました。昨今医科大学の入試の不祥事が報道され国民の関心が高まっていた中、医科大学への進学を希望する受験者が多かったことに、日本の医学の未来は明るいと思えました。そこで、医学を志す人達が優れた医療教育を受け、学識・人格を身に付けるため、医療分野で活躍する人達のためにも少しでも役立てることを思い、献体を決意しました。自分の遺体が社会の為にまた日本の未来を担う人達の教育に役立つことを願い、入会を申し込み致します。



人生のネクストステージへ

船橋市 田代 浩巳

この書類を作成するにあたり、自分の人生を振り返ってみました。少年時代、学生時代、建設会社でのサラリーマン時代、六十七歳で仕事を辞めてからの地元地域での活動時代。もうすぐ八十歳をむかえる私の人生は自分の意志を貫き日々楽しく有意義な人生だった。特に十年前に始めた傾聴ボランティア活動はとても充実した時間でした。そのボランティア活動もこの二月に卒業した今、次のスタートに立っている。ではこれから何を愉しみに何を生きがいに残りの人生をどう生きようかあらためて考えてみました。そんな時、好きな浅田次郎の小説で献体という言葉に出会い、これだと閃いた。新しい活動をするにしても、その終わりをどう迎えるか考える時、なにかとても心が落ちつきホっとしたのです。平々凡々楽しんで人生の終わりにちよつとだけ人の為になれる喜びを感じ、それまでの時間をどう過ごすかゆっくり考えることが出来ます。また三名の同意者が快く理解してくれ、背中を押してくれたので良いスタートが出来ると感じた次第です。

会員からのお便り

松戸市 辻本 秀人

千葉白菊会の会員証をいただきました。本当に有難うございます。

我々の少し先輩の方々はあの戦争で不幸な最期をとげられました。それを思うと無事八十歳まで生きてこれれ平和な毎日でした。本当に有難く人生にお礼を言っているし嬉しいです。

献体登録で少しでも世の為になればと入会させていただき心より感謝を申し上げます。お願いします。

ほんの少しでも千葉大学医学生の皆様の為になればと心より思っております。会報等を読み自分の行為に安心していただいています。どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

千葉市花見川区 濱辺 ますみ

つい先日までのあの暑さはどこへ？
一気に涼しくなってしまった今日この頃です。

このたびは来年の手帳をお送りください

いましてありがとうございます。とても使いやしくて重宝しておりますのでまた一年このグリーンの手帳と共に過ごせることを嬉しく思います。
ありがとうございます。大切に用いさせていただきます。

千葉市美浜区 鈴木 昌子

秋も間もなく終わり、冬に向かおうとしている風の日多く感じております。日頃は私達会員の為にお世話様です。会報五十六号お送り下さいまして有難うございます。何と総会に向かう途中、学生さんのご案内に私が写真に写っております。ビックリ！嬉しく早速子供に送ることに致します。記念になります。

日頃健康に注意し、事故に遭わないよう気をつけて居ります。有難うございました。

松戸市 菅 悦朗

会員証等を郵送いただき安堵しております。死は前触れもなくやって来ます。献体の事を知りながら、いつか手続きをと思いつつずるずると歳月が流れてしま

いました。二十代の頃、医学部受験に挑んだ事もありましたが二度の失敗であきらめました。こうして献体という形でお役に立てることになったのをうれしく思います。

秋田県の盆地に生まれ、毎日たはたを食べて育ちました。人から肌が白いと言われます。高校時、野球の練習に励み肩が左右で全く異なります。中年以降運動不足に陥り五十二歳頃から糖尿病で通院し、現在に至っております。

現在六十二歳ですが、二十年近くは建物の電気保安に携わり、月に何度か寝泊りのある仕事をしています。

残り少ない余生を心身ともに健全に過ごすことを心掛けたいと思っております。

千葉市若葉区 理事 酒井 徳子

私は四年前に脊柱管狭窄症で手術をし、今は腰痛はありません。手術を受ける一年前に急に腰痛になりました。若い頃からの腰痛もちではなかったもので、何が悪くてこんなに腰が痛むのかと考え、テレビでみたゴッドハンドの治療所に行ったり、近所で全体の針を打ってもらったり

してました。しかし足先までしびれる様になり、原因を病院で調べてもらわなくてはと考えつき千葉メディカルセンターに行き、診察と検査を受け私の場合も老化のため腰骨が二か所トゲになりトゲの先が神経にさわるので痛みとしびれがあると判明。で、トゲを手術で切り取りました。手術の前に主治医の平山先生から私の希望するお腹に三つの穴をあけて行う腹腔鏡手術ではトゲは取れないと説明されました。献体する時に学生さんが傷だらけだとかっかりされると言いましたら、背中の下の方に目立たなく切りますと言われました。そして手術後の抜糸の時にきれいですよと言われ、心から安心しました。

千葉市緑区 青柳 信子

平成から令和になった昨年、私は二人の母を見送りました。一月に亡くなった実母は実家の墓地に埋葬されました。弟に「埋葬許可証はどうするの」と聞いたら、「俺が持つてる」と。田舎によくある個人所有の墓地では、埋葬許可証は自分で保管ということを知りました。

リスの迷路

ちょっと頭の体操してみませんか？

(答えはP41)



九月に亡くなった義母は、生前の言葉通り福井県の〇〇寺の合祀墓に埋葬しましたが、夫の希望で火葬時に分骨して千葉県にもお墓を作ることになり、金銭面や管理などを考えてこちらは樹木葬を選んできました。インターネットで調べたら、

幸い千葉駅近くに粉骨と樹木葬をしている会社があり、そこへお願いしました。義母の二つ目のお墓は市原市にあり、管理人の丹精した花の咲くきれいな霊園です。園内を歩きながら、元気なうちに自分のお墓を決めておこうと考えました。

令和2年度役員・事務局紹介

2年間よろしくお願いいたします



水野佳子理事



*森岡里佳子理事

(左から) 青柳信子監事* 星川真一理事 酒井徳子理事 小宮山政敏理事
伊藤恵子事務局職員 鈴木崇根副会長 大澤國昭会長 *成田都理事
鈴木和男副会長 *袖山洋志事務局長 (*印は4月1日就任)

～変更届提出のお願い～ 住所や同意書に変更のあった方へ

最近転居先不明などで連絡の取れない会員が増えています。住所等変更のあった際はお手数ですが事務局までお知らせ下さい。事務局まで各種届出書類をご請求の上郵送いただくか、右の用紙を切り取って葉書に張り付け(又は封筒に入れ郵送)事務局までお送り下さい。(電話のみではお受けできません)

なお、県外へ転居される場合もご一報ください。千葉県近隣の地域の場合、お迎え可能な場合がございます。難しい場合はご退会の上、新しくお住いの地域の団体にご加入いただくこととなります。

(問い合わせ先をご案内いたします)

また、退会をご検討の場合で本人や同意者の気持ちの変化以外の理由で悩まれている場合は是非ご相談下さい。退会しなくても済む場合がございます。

ハガキに貼る場合の切り取り線

令和 年 月 日

千葉白菊会事務局 宛

下記の事項を変更しましたのでお届けします。

会員番号 氏名

変更する事項

(該当する所を○で囲んで下さい)

1. 住所
2. 電話番号
3. 同意者氏名
4. 同意者住所、電話番号
5. その他(同意者のご逝去・追加等)

変更後の情報

事務局からのお知らせ

○ 本年は新型コロナウイルス感染症拡大の
為持ち回り決議にて役員改選が行われ
ました。

令和二年三月三十一日付で宇佐美幸子
副会長と野村烈男理事が退任しました。
宇佐美副会長は十二年前に理事となり
ここ四年間、副会長を勤められました。
野村理事は、四年間理事として会報編
集に尽力されました。お疲れさまでし
た。

また人事異動により4月より袖山洋志
副課長が事務局長に就任しました。
よろしくお願いいたします。

○ 例年総会会場でご自由にお持ち帰りい
ただいている文集「解剖学への招待」
二〇一九年版をご希望の方に差し上げ
ます。篤志解剖全国連合会が年一回発
行しているもので、全国の会員の手記
や解剖学実習を終えた学生等の感想文
が掲載されて
います。
事務局までお
問合せ下さい。

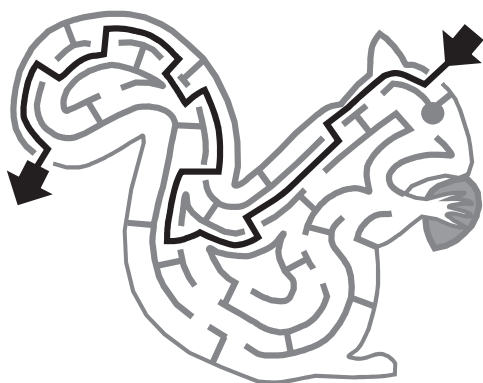


編集後記

❖ 見えない敵「コロナ感染症」に対する
政府の「自粛」「3密」「ソーシャル・
ディスタンス」「マスク・手洗い」そし
て「接触認定アプリのインストール」
等を骨子とする自衛手段が報じられて
いる。人は武器を持たない防衛手段に
は限界があり、見えない恐怖や憶測を
呼び、悪意や中傷を広げてゆくと考え
る。日本産業カウンセラー協会の「反
応するのではなく対応することが大
切」で「免疫力」がポイントとなる
の言葉は、見えない敵「感染症」に積
極的攻撃を一日も早い実現を期待する
ものと言える。(K・S)

❖ 美しい色どりの蝶が毎日数羽ずつ窓ご
しに舞っています。庭の古い「すだち」

迷路の答えはこちら



秋の公園に出掛けてみませんか

千葉白菊会会報第57号
令和2年9月発行

発行人 大澤國昭
発行所 篤志献体運動団体 千葉白菊会
〒260-8670
千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
TEL 043-222-7171 (内線 5023)
印刷所 三陽メディア株式会社 千葉営業所
〒260-0824
千葉市中央区浜野町1397
TEL 043-266-8437

❖ コロナ禍の中、早三つ目の季節を迎え
ました。新しい生活様式、新しい編集
様式も常識になりつつあると感じてい
る昨今です。(R・M)

❖ 母の9人きょうだい最後のおじが胃が
んで八十八歳で亡くなりました。コロ
ナのせいでお見舞いもお葬式も行けず、
納骨だけ県内なので参加可。お骨にな
る前に一日会いたかったです。(T・S)

❖ 木が育んでくれていているようです。家
での時間が多い日々、心と目を優しく
してくれませう。(Y・M)

献体について (Q & A)

献体登録希望者からの質問 → 千葉白菊会 (043-222-7171内線5023)

- Q.** 千葉白菊会に入会するにはどうすればよいのですか。
- A.** 白菊会事務局へお電話をいただければ、献体に関するご案内および入会申込書を送付いたします。
- Q.** 入会時、親族が誰もいないので友人等の同意で入会可能ですか。
- A.** 入会時には3名以上の同意をお願いしております。献体後ご遺骨をお返しいたしますので、お身内の方もしくは献体から2～3年後に必ず連絡が取れ、大学までご遺骨の引取りに来ていただける方をお願いいたします。
- Q.** 手術を何度も受けているが献体できますか。
- A.** 問題なく献体していただけます。
- Q.** 献体できない病歴などはありますか。
- A.** B型肝炎・C型肝炎・結核などの感染症に罹患されたことのある方は献体をお断りさせていただきます。現在は医療技術の進歩により完治していると言われても、免疫力等が低下した場合は再発してしまう可能性があります。その場合、自覚症状が無くても、処置をする職員や解剖をする医学生に感染してしまう危険があるため献体登録はお断りしています。
- ※現在「新型コロナウイルス感染」により亡くなられたと診断を受けている場合は、処置の際にスタッフが感染するリスクがあります。献体されるときに大学にご連絡を頂くこととなりますが、新型コロナウイルス感染が確認されている場合は、献体をお断りさせていただきます。今後新しい治療方法が確立されるなど状況が変わるごとに対応については見直して参りますので、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。
- Q.** 病歴以外で献体ができない場合はありますか。
- A.** 交通事故や自殺、事件性があり警察が介入している場合、県外で亡くなられた場合、ご家族の承諾が得られない場合、遺骨の引取者がいない場合などの状況では献体が出来ない可能性があります。
- Q.** 献体時の費用は必要ですか。
- A.** ご遺体の引取りからご遺骨の返還までの諸費用（自宅・病院等から大学までの搬送費、火葬費など）は、大学にて負担いたします。ただし通夜・葬儀および埋葬費用等は大学で負担することはできません。
- Q.** アイバンクへの登録や臓器提供意思表示カードを携帯していても入会できますか。
- A.** 併行登録は差支えありませんが、アイバンクへの献眼は1眼のみとなります。また、臓器提供をされた方は献体をすることができません。

千葉白菊会会員からの質問 → 千葉白菊会 (043-222-7171内線5023)

- Q.** 住所や連絡者が変わったらどうすればよいですか。
- A.** 住所や電話番号、連絡者（会員証裏面に記載の縁故者）等の変更は、できるだけ早く白菊会事務局へ連絡願います。また、会員証紛失による再発行もご連絡ください。
- Q.** 千葉県外へ転居した場合はどうすればよいですか。
- A.** 千葉白菊会ではお迎え可能地域を千葉県内とさせていただいております。県外へ転居の場合は白菊会事務局へ連絡願います。退会のお手続き、あるいは転居先地域の献体登録団体への転籍手続きをご案内いたします。また、県外の病院等にてお亡くなりになった場合ご遺体のお迎えができないことがございます。
- Q.** 入会后、状況や心境の変化により登録を取消することができますか。
- A.** 登録の取消は可能です。会員番号・氏名・退会理由を記入し（書式は問いません）、会員証を同封のうえ白菊会事務局宛てに郵送にてお届けください。万が一、会員証紛失の場合は紛失の旨ご記入ください。

ご家族からの質問 → 千葉大学医学部 (043-222-7171内線5017)

- Q.** 会員が死亡したとき、どうすればよいですか。
- A.** まず、できるだけ早く千葉大学医学部へ連絡してください。24時間受付可能です。ご連絡をいただいた際にお迎えの日時を相談いたします。なお、夜間・休日は警備員が対応いたします。
- Q.** 献体をするときのご遺体に何を着せたらいいですか。
- A.** 特に決まりはございませんので、ご家族が用意されたものでよろしいかと思えます。
- Q.** 遺骨が返還されるまでの期間はどのくらいですか。
- A.** ご遺体をお預かりしてからおよそ2～3年位お待ちいただくこととなります。ご遺骨は、千葉大学の解剖慰霊祭・ご遺骨返還式にてお返しいたします。解剖終了後、ご遺骨返還の目途がつけましたら大学より連絡いたします。
- Q.** 献体後、遺体との対面は可能ですか。
- A.** 申し訳ありませんが、大学への搬送後にご遠慮いただいております。
- Q.** 献体後、遺骨を大学で預かってもらえますか。
- A.** 申し訳ありませんが、ご遺骨の保管場所がないため返還させていただいております。
- Q.** 遺骨を灰にして返してもらえませんか。
- A.** 申し訳ありませんが、ご遺体は火葬後ご遺骨の状態にてお返ししております。また、納骨・散骨等も行っておりません。

千葉白菊会会員のご家族の方々へ

献体の実行について—千葉大学医学部からのお願い

千葉白菊会会員の方がお亡くなりになった場合、通夜・告別式・大学からのお迎えの日取り等をご遺族の皆様でお決めになったうえで、千葉大学医学部に電話にてご一報ください。

なお、千葉白菊会への連絡は必要ありません。

1. 大学への電話連絡 043-222-7171 (代表)

電話交換手に「献体登録者が亡くなりましたので、献体を行います」とお伝えください。

担当者におつなぎしますので、献体の日取り等についてお知らせください。

○平日 (午前8時30分から午後5時15分)

医学部の職員 (内線5017番) が対応します。

○上記以外の夜間、土日祝日の場合

職員の勤務時間外は警備員が対応するようになっています。

2. お知らせいただく内容

ご遺体を大学へお渡しいただく日時などについてお知らせください。その他ご不明な点はここでお問合せください。お迎えには大学から委託された葬儀社の者が参ります。

3. 献体手続きに必要な書類

①死亡診断書の写し……医師の死亡診断書をコピーしておいてください。(お迎えの際に必要となりますので必ずお迎えまでにご用意いただき携携の葬儀業者にお渡しください)

②埋火葬許可証……市町村役場に医師の死亡診断書を添えて「死亡届」を提出すると交付されます。その際、火葬場所は「千葉市斎場」とご記入ください。

③解剖に関する遺族の承諾書……献体お預かり後、郵送いたしますので、ご署名・捺印のうえご返送ください。返信用封筒を同封しますので、埋火葬許可証と一緒にご返送ください。

<まとめ>①の書類はお迎え時に葬儀業者に手渡し。②・③の書類は後日大学から返信用封筒が届いたから大学へ郵送。

注意事項

※ 亡くなられてからお迎えまで数日間あく場合は、ご遺体が傷まないようご配慮ください。

お棺にドライアイスを入れる場合は、直接ご遺体に触れないようお棺の四隅に入れてください。

※ 事故死 (交通事故、れき死、水死等) や自殺の場合は献体できません。その他、お体の状態により保管のための処置が困難な場合にも、献体できないことがあります。

ご不明の点がありましたら、医学部担当者にお問合せください。

(043-222-7171 内線5017)

アイバンクにも登録されている場合

※ 登録者が亡くなられた際には、なるべく早く、まずアイバンク協会にご連絡ください。

平日 043-222-6803、夜間休日 043-222-7171 内線6547

その際、アイバンク協会に献体登録者であることを合わせてお伝えください。

(献体登録者はアイバンクへの提供は片目だけになります。)

その他、アイバンクに関する詳細は、アイバンク協会にお問合せください。

アイバンク協会への連絡後、あらためて大学へ献体の電話連絡をお願いいたします。